

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 8 月 31 日現在

機関番号：23702

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26463497

研究課題名(和文) 精神保健医療福祉サービス資源が限られた地域における地域基盤型精神看護モデルの開発

研究課題名(英文) Development of a community based psychiatric nursing model in an area with few mental health, medical and welfare service resources

研究代表者

石川 かおり (ISHIKAWA, KAORI)

岐阜県立看護大学・看護学部・教授(移行)

研究者番号：50282463

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：文献検討と先駆的地域の聞き取り結果を踏まえ、研究フィールドであるA町において、精神障害者の地域生活を支援している保健師と訪問看護師と協働してアクション・リサーチを実施した。その結果、A町において精神障害者を支援している多専門職/非専門職を対象としたワークショップを3回実施できた。また、精神保健医療福祉サービス資源が限定されている地域において精神障害者の地域生活を支援するための保健師と訪問看護師の役割を明確にした。これらの活動を通して、これまで未知であった支援者と実際の支援において連携したり、保健師と訪問看護師の新たな連携・協働の取り組みが開始されるなどの新たな動きが生まれた。

研究成果の概要(英文)：Based on interviews and papers on pioneering practices, we conducted action research together with public health nurses and visiting nurses in the research field. Three workshops were held for multi-professional and non-professionals supporting mentally handicapped in the research field. We also clarified the role of public health nurses and home visiting nurses to support the community life of mentally disabled people in areas where mental health care and welfare service resources are limited. Through these actions, new activities such as cooperation with the unknown supporters in actual support and the start of new collaboration between public health nurses and home visiting nurses were born.

研究分野：精神看護学

 キーワード：地域基盤型精神看護 精神科訪問看護 精神障害者 地域生活支援 家族支援 アクション・リサーチ  
保健師 専門職連携

## 1. 研究開始当初の背景

精神科医療に関する今後の方向性の論点がまとめられた「精神科医療の機能分化と質の向上に関する検討会」(厚生労働省, 2012)では、精神科入院患者は原則1年で退院させ、地域医療で対処できる仕組みを作るという方針を打ち出しており、今後は多くの精神障害者が地域社会で暮らせるようになることが期待される。しかし、現在の地域社会においては、社会資源の不足、資源を結ぶためのネットワークの未整備、地域生活を支援する方法論の未成熟などの課題があり、地域社会が障害者の地域生活移行・継続を受け止め支援するための十分な力量を備えているとは言いがたい状況がある。特にハードを伴う社会資源の整備に関しては地域格差が存在し、資源整備の必要性は認識されていても財政面の問題などから急速な展開を望むことは難しい。そのため、人的・社会的資源が限られている地域においては、精神障害者を地域のなかで支援することはより大きな課題であり、その地域の課題や強みを踏まえた新しい仕組みや支援するための方法論を創造していく必要があると考えた。

## 2. 研究の目的

本研究では、精神保健医療福祉サービス資源が限定されている地域において、精神障害者のリハビリを促進し、地域生活への移行と継続を支援する地域精神看護モデルを開発することを目指していくこととした。そのために、特に地域で活動する看護専門職である保健師と訪問看護師に焦点をあてて、それらの看護専門職と協働してアクション・リサーチに取り組むことを通して、精神保健医療福祉サービス資源が限定されている地域において精神障害者の地域生活を支援する看護専門職の役割を明確にすることを目的とした。

## 3. 研究の方法

### 1) 精神障害者の退院支援・地域生活移行支援における専門職連携に関する文献検討

目的：精神障害者の退院支援・地域生活移行支援における専門職連携に関連する文献検討から、現状の専門職連携上の困難とコツを整理する。

方法：データベースは医中誌 Web 版 ver.5 を使用し、検索期間は1987年 - 2014年、タイトルに検索語「精神」×「専門職連携」、「精神」×「他職種」、「精神」×「多

職種」を含むものを抽出し、さらに「退院支援」「地域生活」「社会復帰」をそれぞれかけあわせた。論文の種類は、原著論文、総説、解説とし、医療観察法病棟に焦点化した文献は除外した。対象文献19編から専門職連携上の困難とコツに関連する記述を抽出し、内容の類似性と差異性の観点から整理した。

### 2) 先駆的実践に関するインタビュー調査

目的：社会資源が限られた地域で先駆的な実践を行っている支援者らの体験を探索し、地域における精神障害者の地域生活支援のあり方について示唆を得る。

方法：精神障害者の地域生活支援の成果をあげている他県X町を選定した。半構造化インタビューの対象者は、支援に従事している専門職11名(精神科病院院長1、外来看護師1、外来保健師1、病棟師長1、グループホーム精神保健福祉士1、地域活動支援センター精神保健福祉士1、デイサービスセンター管理者2とスタッフ1、小規模多機能型居宅介護事業所看護師1)と非専門職(NPO 法人理事)2名とした。データは質的帰納的に分析した。

### 3) A町における精神障害者の地域生活支援の現状と課題

目的：精神保健医療福祉サービスが限定されている地域であるA町の現状と課題を明確にし、続くアクションを検討するための示唆を得る。

方法：A町で精神障害者の地域生活を支援している多領域の専門職9名で、グループディスカッションを実施した。さらに、診療所の家庭医2名および看護師2名、訪問看護ステーション看護師1名、地域包括支援センターの保健師1名とケアマネジャー1名を対象としてインタビューを行った。グループディスカッションは、2014年8月~2015年1月に計3回実施した。インタビューは2014年8月~2015年3月の期間に実施した。

グループディスカッションとインタビューの内容は許可を得てICレコーダーに録音し、逐語録を作成した。逐語データから住民のメンタルヘルスをサポートする上での課題と強みに関連する記述を抽出し、質的帰納的に分析した。

### 4) 協働する看護専門職者らとの検討

3)で明らかになったA町の課題と強みを踏まえて、協働するA町の地域包括支援センターの保健師とケアマネジャー、訪問看護師ら

と共に次の段階で取り組むべき課題と具体的な方策について検討した。

#### 5) A 町における専門職連携ワークショップの試み (アクション1)

目的：A 町内の専門職らが対話を通してお互いを知ること、交流すること、みんなでその地域のメンタルヘルスに関連する課題や強みを共有することを目的とする。

方法：ワークショップは 2015 年に 3 回開催した。対象者は、A 町および近隣の町村の医療、福祉、介護、養育、教育等に携わる者とし、様々な機関に向けて幅広く参加の呼びかけ、1 回目は 61 名、2 回目は 45 名、3 回目は 58 名、総計 164 名が参加した。第 1 回目はワールドカフェ、第 2 回目と 3 回目はメンタルヘルスに関連するケーススタディをメインの内容とした。終了後にアンケートを実施し、ワークショップの満足度について 5 段階で確認した。

#### 6) 精神保健医療福祉サービス資源が限定されている地域で精神障害者の地域生活を支援するための保健師の役割の明確化 (アクション2)

目的：精神医療福祉の社会資源が限定されている過疎地域で、精神障害者の地域生活を支援するための保健師の役割を明らかにする。

方法：A 町の保健師と連携して精神障害者の支援をしている他の専門職者 6 名を対象として、保健師の活動について半構造化インタビューを行った。保健師の役割が読み取れるデータについて抽出し、質的帰納的に分析した。

#### 7) 精神保健医療福祉サービス資源が限定されている地域で精神障害者の地域生活を支援する訪問看護師の役割の明確化 (アクション3)

目的：精神保健医療福祉資源が限られている過疎地域において実践している精神科訪問看護の内容を明らかにし、その意義について検討する。

方法：精神科訪問看護事例のうち、研究者以外の看護師が担当し、利用者や家族から同意が得られた 3 事例の訪問看護記録の看護内容の記述および担当訪問看護師 (2 名) への聞き取りの内容をデータとし、質的帰納的に分析した。データ収集期間は 2015 年 4 月～2016 年 9 月であった。

## 4. 研究成果

### 1) 精神障害者の退院支援・地域生活移行支援における専門職連携に関する文献検討

専門職連携上の困難として[多職種で連携する支援システムが未整備][連携の評価方法が未構築][連携への抵抗][チーム内パワーのアンバランス][時間的制約によるカンファレンスの困難][情報交換・共有の不足][他職種の専門性への無知][職種間の業務境界][他職種との見解の相違][ケアの分断・停滞・遅れ]が整理された。専門職連携のコツとして[小規模高パフォーマンスのチーム編成][理念の共有][情報の共有][支援の目的、計画、方針の決定と共有][課題解決の検討][明確かつボーダーレスな役割分担][定期的かつタイムリーなカンファレンス][カンファレンス外の随時の情報交換][各自の責任感と互いの信頼感][水平構造のパワーバランス]が整理された。専門職連携の促進要因として[専門職連携が必然となる支援システムの構築・導入][各専門職のスキルアップのための研修・教育][スタッフの自律性の保障とトップダウンの指令][専門職連携による報酬]が整理された。

### 2) 先駆的実践に関するインタビュー調査

地域生活支援の要素は「活動理念」「活動動機」「活動の基盤となる考え方」「専門職の活動目的」「専門職が地域活動に参加するコツ」「専門職の地域活動を促進する要因」「非専門職の経験」「非専門職の活動の促進要因」「活動の基盤となる地域の風土」に整理された。

### 3) A 町における精神障害者の地域生活支援の現状と課題

研究フィールドとした A 町は県の過疎地域に指定され、65 歳以上人口は 35.2%であり、うち山間地域の高齢化率は 50%を超える。A 町内には精神科病院および精神科診療所はなく、複数診療科を有する町内の病院で非常勤の精神科医による精神科外来診療が週 1 回行われているのみである。また、精神科領域に特化した福祉サービス資源は少ないため、住民である精神障害者は近隣市町の精神医療福祉サービス資源を活用していることが多い。

A 町のメンタルヘルス上の課題として、「高齢者のメンタルヘルス上の問題が増加していること」「子どものメンタルヘルス上の問題に関して学校との連携がないこと」「引き

こもりの人々（子ども、成人、高齢者）をサービスにつなぐことが難しいこと」「メンタルヘルス上の問題があっても精神科の専門家にかかっていない場合があること」が挙げられた。サポートする上での課題として、「他機関や他職種との交流や連携がまだ不十分」「支援者はそれぞれ困難事例を抱えていること」「自分のケアに不安があるが精神科の専門機関が近くにないので適時相談できないこと」「近隣市町の精神科病院との連携が不十分（住民が入院する時の関わりに限られている）」「多機関・多職種で連携は個人の力量によることが多くシステム化していないこと」「A町でのこれまでのサポート活動の成果が可視化されていない（アピールできていない）」「次世代の支援者の育成が不十分であること」が整理された。A町の強みとして、「資源が少ないからこそ既存の機関や専門職が連携しやすいこと（お互いの信頼関係が構築されつつある）」「資源が少ないからこそ、各専門職が工夫をしてサポートしていること」「他にサポートする人がいないため、時には制度の枠組みを超えてチャレンジすること」「それぞれの専門家が高い利他性と責任感を持っていること」「支援者の多くは、町内で開催する研修会に熱心に参加すること」「専門家だけでなく民生委員が熱心に活動していること」「住民の多くはA町で暮らし続けたいと願っていること」が整理された。

#### 4) 協働する看護専門職者らとの検討

A町の地域包括支援センターではこれまでも年に1~2回程度多職種を対象とした事例検討会を開催してきたが、明確な目的を設定していないという課題があった。また、精神障害者の支援については町内で比較的うまく連携して行っているのではないかという実感はあるが、それが可視化されておらず、共有されていない現状があった。そこで、現状のネットワークを更に広げて密にしていくことやエンパワメントを目的として、多機関・多職種・非専門職が集まり困難事例の支援について検討したり、交流したりすることを目的としたワークショップを企画することとした。また、現状では「保健師の専門性は特にない」と捉えており、社会資源が限定されている地域において精神障害者を支援するための保健師の役割について改めて検討したいという要望が出された。

A町の総合病院に併設する訪問看護ステーションは、2010年5月から精神科訪問看護を開始したが、利用者はいずれも病状悪化によ

る再入院はなく地域生活を継続できていた。このことから、訪問看護師らは試行錯誤しながらも有用なケアを実践していることが推察されたが、訪問看護師は看護の意味や意義についてこれまで検討したことはなく、自信が持てない状況でもあった。そのため、アクションとして、自分たちが実践している精神科訪問看護の内容を明らかにし、その意義について検討する研究に取り組むこととした。

#### 5) A町における専門職連携ワークショップの試み（アクション1）

ワークを通して得たことには、「A町内の多くの他専門職と対場や職種の違いを超えて意見交換や情報交換をした」「町内のサービス資源や関わる人々の存在を知った」「異業種や他施設の考えや役割を知った」「住民の立ち場で支援する民生委員の活動や困難を知った」「A町の良い所や強みに気付いた」「悩みや困っていることを共有できた」「勇気や力をもらった」などが含まれていた。ワークを通して感じた課題には、「町内のメンタルヘルスの問題として、子ども、成人、高齢者の引きこもりのケースが増えている」「支援を求めている人に対する対応が難しい」「精神科領域の専門家と地域の支援者が連携する体制をつくる必要がある」「子どものメンタルヘルスのためには学校関係者と地域の支援者間で連携する必要がある」「患者だけでなく家族や近隣住民とも連携して支援する必要がある」などが含まれていた。ワークショップの満足度について、「大変良い」「良い」と回答した割合は、1回目は96%、2回目は100%、3回目は97%であった。

#### 6) 精神保健医療福祉サービス資源が限定されている地域で精神障害者の地域生活を支援するための保健師の役割の明確化（アクション2）

明らかになった保健師の役割は、「相談の窓口」「住民のメンタルヘルスの把握とアセスメント」「緊急時の対応」「退院の支援」「地域の支援者のつなぎ役・協働」「支援の基盤となるネットワークづくり」の6つであった。

#### 7) 精神保健医療福祉サービス資源が限定されている地域で精神障害者の地域生活を支援する訪問看護師の役割の明確化（アクション3）

訪問看護の内容は、「利用者・家族中心の基本姿勢」「利用者の目標達成とストレングスへの焦点化」「心身の健康状態の調整と主体

的な自己管理の促進」「家族へのサポートと家族との連携」「他の支援者との課題の共有と連携」の5点に集約された。

#### 8)成果の総括

アクション・リサーチの準備段階として行った文献検討で明らかになった専門職連携の促進要因の要素をワークショップに組み込む要素として参考にした。また、A町と同様に高齢・過疎化が進んでいる地域における先駆的实践に関するインタビュー調査からは、国の行政機関から遠く離れた地方には都市型の支援モデルは適応しないため、臨機応変にその地域に即した汎用性の高い支援方法やシステムを構築していく重要性が確認できた。また、高齢過疎の地域では精神障害者の問題以外にも課題が山積しているため、精神障害者の課題から住民全体の課題へシフトして取り組む必要性と、そうすることによって非専門職や未知の専門職との協働の可能性が示唆された。

A町におけるアクション・リサーチでは、まずA町における精神障害者の地域生活支援上の現状と課題を明確し、その結果を踏まえて保健師と訪問看護師らを中心にした現地の支援者と共に取り組むべき課題について検討し、実施するアクションを企画・実施した。3回のワークショップを通して、それまで未知であった民生委員や調剤薬局薬剤師の活動内容や役割を新たに知る機会となったり、小学校教諭や養護教諭、幼稚園教諭などの学校関係者の参加者もあり、ワークショップの目的である「地域内の専門職ら対話を通してお互いを知ること、交流すること」「地域のメンタルヘルスに関する課題や強みを共有すること」は達成できた。また、立場や専門性の違いを超えて、困難や悩みを共有し、エンパワメントの場になっていたことが示唆された。そして、専門職間だけでなく住民との連携や住民の視点について考える機会になった点は本ワークショップの意義として評価できる。このような活動をコツコツと継続していくことで、インクルーシブなコミュニティが醸成されていくことを期待したい。今後は、老年期のメンタルヘルスや精神障害者の地域生活支援など異なるテーマに取り組んだり、本ワークショップを通してさらに明らかになった課題に取り組んでいくための具体的な方法論の確立や連携システムの構築につなげることを目的としたワークショップを継続して企画・実施していくことが課題である。

当初保健師は、「保健師の専門性については特になし」と捉えていたが、精神障害者の地域生活を支援するための保健師の役割6点と家族支援の内容6点、が示され、保健師自らの役割を明確にできたことで、日頃の看護実践活動の意義を確認することができた。また、当初訪問看護師は、試行錯誤しながらも有用なケアを実践していることが示唆されたが、自分たちが実践している看護の意味や有用性について検討したことがなく、自信が持てない状況にあったが、訪問看護師の役割5点を明確にし、その意義を検討することによって、資源が限られた地域において精神障害者を支援する訪問看護の役割を改めて認識することができた。今回明らかになった保健師と訪問看護師の果たしている役割は、障害の有無に関わらず一人の住民として利用者・家族を包括的に捉えて支援すること、利用者のリカバリーを支援すること、資源が少ないことが併せ持つ支援者同士が顔見知りであるという利点活かして連携すること、未知の支援者を見つけたり新たな資源を創出していくことなどが特徴であると考えられ、これらが精神保健医療福祉サービスが限定された地域で精神障害者の地域生活を支援するための看護モデルにおいて重要な要素になると考えられた。一方で、精神科病院への入退院時における精神科病院との連携や、地域生活のなかで起こりうる精神症状の波への対応についての精神科医へのコンサルテーションなどにおいては苦慮する場面も少なからずあることから、今後の課題として取り組む必要がある。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1件)

石川かおり，松井由美，葛谷玲子，大久保みちよ：精神医療福祉サービス資源が少ない過疎地域における精神科訪問看護の検討．岐阜県立看護大学紀要，18(1)，153-160，2018．

〔学会発表〕(計 8件)

石川かおり，葛谷玲子，高橋未来：精神障害者の退院支援・地域生活移行支援における専門職連携に関する文献検討．第34回日本看護科学学会学術集会講演，p642，2014．(11月29-30日，名古屋)

Kaori ISHIKAWA: Support in the community

for individuals with mental disorder living in underpopulated area of Japan. The 6th international conference on community health nursing research, Abstract ID 64, 2015. (8月19-21日, 韓国ソウル)

Kaori ISHIKAWA, Reiko KUZUYA, Yoshimi ENDO: The Creation of a Mental Health Support System in a Japanese Community with Few Social Resources. 21st International Network for Psychiatric Nursing Research (NPNR) Conference Books of Abstract, pp.179-181, 2015 (9月17-18日, 英国マンチェスター)

Kaori ISHIKAWA, Reiko KUZUYA, Miku TAKAHASHI: Trial Workshops for Interprofessional working in a Depopulated Area of Japan with Limited Social Resources for Mental Health Care. All Together Better Health program, p40, 2016 (9月6-9日, 英国オックスフォード)

Kaori Ishikawa, Reiko Kuzuya, Miku Takahashi, Yoshimi Endo, Midori Sugino: Roles of public health nurse in supporting mentally ill people in areas with few social resources for mental health welfare, The 20th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS), Abstract Book for Poster Presentations, p201, 2017. (3月9-10日, 香港)

松井由美, 石川かおり, 大久保みちよ: 精神保健医療福祉資源が少ない過疎地域における精神科訪問看護の検討. 第48回日本看護学会 - 精神看護 - 学術集会抄録集, p84, 2017. (9月29-30日, 松江)

Kaori Ishikawa, Reiko Kuzuya, Yoshimi Endo: Interprofessional working in psychiatric home-visit nursing in a depopulated area. TNMC & WANS International Nursing Research Conference 2017, Abstract ID:131, 2017 (10月20-22日, バンコク)

石川かおり, 葛谷玲子, 遠藤淑美: 社会資源が限定されている過疎地域の保健師による精神障害者の家族支援. 第37回日本看護科学学会学術集会講演集, 2017. (12月16-17日, 仙台)

〔図書〕(計 0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年:  
国内外の別:

取得状況(計 0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
取得年:  
国内外の別:

〔その他〕  
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

石川かおり (ISHIKAWA, Kaori)  
岐阜県立看護大学・看護学部・教授  
研究者番号: 50282463

(2) 連携研究者

遠藤淑美 (ENDO, Yoshimi)  
大阪大学大学院・医学研究科・教授  
研究者番号: 50279832

杉野緑 (SUGINO, Midori)  
岐阜県立看護大学・看護学部・教授  
研究者番号: 70326106

葛谷玲子 (KUZUYA, Reiko)  
岐阜県立看護大学・看護学部・講師  
研究者番号: 30598917

(3) 研究協力者

高橋未来 (TAKAHASHI, Miku)  
高橋真紀 (TAKAHASHI, Maki)  
仲井朝恵 (NAKAI, Asae)  
吉村学 (YOSHIMURA, Manabu)  
横田修一 (Yokota, Syuichi)  
大内衆衛 (OUCHI, Syue)  
菅波裕太 (SUGANAMI, Yuta)  
松井由美 (MATSUI, Yumi)  
大久保みちよ (OOKUBO, Michiyo)